

## 平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

#### ■ 調査の対象学年

中学校3年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

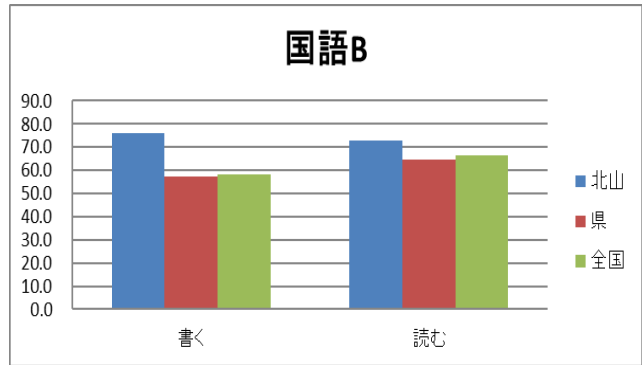
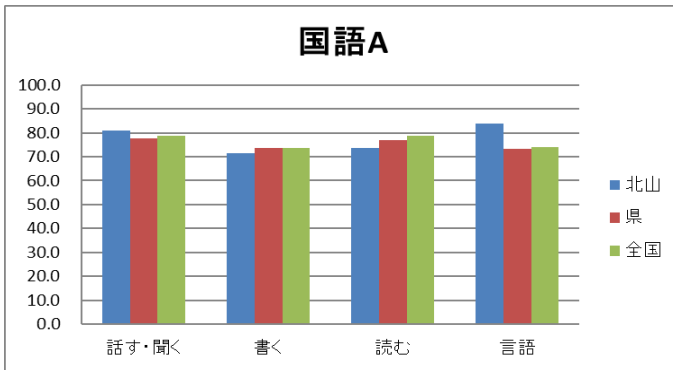
全国学力学習状況調査は中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



「話すこと・聞くこと」の領域と「言語事項」の領域で全国平均を上回っている。その他の領域では2～5ポイント全国平均を下回っているが、全体的に概ね基本的な学習内容は定着していると考えられる。無回答者がいた問題も3問と少ないが、【根拠を明確にして書く】問題で無回答になる傾向がある。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・正答率は全国平均をやや上回っており、基本的な学習内容は定着していると考えられる。

##### 書く

・正答率は全国平均とはほぼ同じであり、基本的な学習内容は定着していると言える。またB問題においては全国平均よりも18ポイント上回っており、書く力は身に付いているといえる。本校の生徒たちは国語の授業だけではなく、生徒会活動など普段の生活の中で文章を書く機会が多いので100字前後の作文を書くのに慣れていていると考えられる。

##### 読む

・A問題は全国平均よりもやや低いが、B問題は全国平均よりも6.5ポイント上回っており、読む力が身に付いてきているといえる。「情報を得る」、「情報を整理し、内容を捉える」、「目的に応じて必要な情報を読み取る」問題で誤答が多く、文章の情報を正しくつかむ学習が必要である。

##### 言語事項

・全国平均よりも10ポイント高く、学習内容が定着していると言える。全国平均よりも正答率が低かった問題は、漢字を書く問題(独創的)、適切な語句を選択する問題、文章を書き直した意図として適切なものを選択する問題であった。漢字の確認(小テスト)や、読み物教材を扱うときの意味調べなど、生徒たちの語彙を増やすことを意識した学習活動を取り入れたい。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 授業をはじめ、ブロック集会や朝の会などで、自分の考えを発表し意見交流する場を数多く設定しています。その際、メモを取りながら聞き取り、意見交流をすることで、話のポイントを押さえています。そうすることで、友だちの意見を聞き、自分の意見を発表するなどのコミュニケーション能力の習得を目指します。
- 朝の読書や地域のボランティアの方々による読み語りや、多読者表彰など、読書を推進しています。読書に親しむ態度を育てることで、考え方の視野を広げることはもちろん、読む力・聞く力を養います。
- 授業においては、めあてを持ち学習し、授業のふり返りを行っています。何を学習するのか、何が理解できたかを明確にさせることで、学習内容の確実な定着を図ります。
- 国語の問題に慣れるため、課題で問題プリントに取り組み、同じ問題を繰り返し解いて定着を図ります。

こ

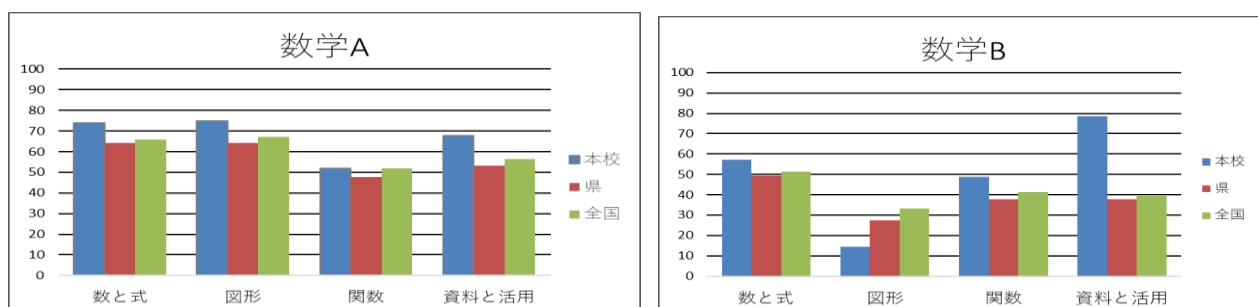
##### 【ご家庭では】

- 本や新聞に親しむ機会を増やしましょう。本に書かれているいろいろな表現や、著者や登場人物の考えに触れることで、語彙力を高めたり、知識の幅を広げたりすることができます。
- お子さんが日ごろから日記などをつけるのもお勧めです。習慣化すれば「いつ、どこで、何をした」という文章の基本を自然と身に付けることができ、文章力を高めることにつながります。
- 試験では、限られた時間内に、正確に読み取り、指示を守り的確に答えることが必要になります。学習プリントや問題集などを活用して、時間を意識して解く練習をすることで力を伸ばすことができます。

## 2 数学

### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う A 問題ではすべての領域が、県平均、および全国平均を上回ることができた。活用力を問う B 問題では図形の領域において下回った。問題数が少なく、全体の人数が少ないため一概には言えないが、付加された条件下で、新しい事柄を見だし説明するといったことへの応用が苦手であるといえる。全体的にどの領域においても、記述式で説明を求められる問題が弱い傾向にある。

### (2) 成果と課題

#### 数と式

・A 問題、B 問題とも全国平均を上回っている。A 問題の基本の計算問題ではほとんどの問題で 8 割以上の正答率であったが、A 問題、B 問題ともに、式を立てたり、意味を求められたりする知識を問う問題に課題がみられた。技能のみでなく、題意を理解して問題を解く指導が必要である。

#### 図形

・図形領域では、A 問題では全国平均を上回ることができたが、B では大きく下回った。特に新たな事柄を予想し、それを根拠立てて説明することができていない。普段から、予想をする活動、根拠だてて説明する活動などを取り入れていく必要がある。

#### 関数

・関数領域は、A 問題、B 問題ともにやや上回ることができた。次年度の学習とのつながりの薄い、反比例の単元での正答率が低かった。復習を取り入れ、繰り返し学習させることで定着をはかる必要がある。

#### 資料の活用

・A 問題、B 問題ともに全国平均を上回った。資料から値を読み取ったり、確率を計算したりすることはできていたが、近似値、測定値、誤差などの用語の意味を正しく理解できていなかった。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 月曜日のスキルタイム(友愛)では、「すくすくテスト」や単元小テストを活用し、基礎・基本の確実な習熟を目指します。また、放課後学習会を利用し、学習の定着を図ります。
- 授業では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えをまとめたり、他の人に伝えたりする言語活動を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を育成し、思考力、活用力を高めます。
- 学習ワークの指導、ノートチェック、学習プリントや家庭学習の課題チェックを丹念に行い、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんが今どんな学習しているのか、どのくらい理解できているのか、ノートやワーク、プリント類にも目を通して頂き、宿題で困っていることはないか、テストはどのくらいできているかなどを把握してください。そして、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 数学は積み上げの教科ともいわれるように、らせん階段を上がるかのように、既習の学習の上に新しい学習を積み上げていきます。数学好きにするには、「時間はかかったけど自分の力で問題が解けた。」「途中であきらめずに一生懸命考えて自分の答えを出した。」「この前は、間違っただけど今度はできた。」「数学の問題集を全部仕上げた。」「という成功体験を積みませましょう。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べています。	100.0	93.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ています。	85.7	75.2
平日、ゲームをするのは1時間以内である。	14.3	42.9
平日、テレビを見る時間は2時間以内である。	42.9	51.2
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	71.4	50.2
友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	100.0	93.0

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。給食も好き嫌がなく、毎日完食できている。実際、学校でも具合が悪くなり、保健室へ行くこともほとんどない。家庭の協力によるものである。

平日にゲームを1～2時間する生徒が、ほとんどであった。平日にテレビを2時間以上見る生徒が半数以上であった。昨年に比べ、ゲームにかける時間が長くなっている。

昨年に比べ、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の項目で、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は減少したが、昨年同様、「友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の項目で「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は100%となっている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	57.1	34.2
休日2時間以上勉強している。	85.7	40.1
家で、自分で計画を立てて勉強している。	71.4	48.4
家で、授業の予習をしている。	28.6	34.2
家で、授業の復習をしている。	85.8	51.0

学習時間は、平日、休日ともに2時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、家庭学習で授業の復習をしていると答えている生徒の割合も全国平均を上回っている。

しかし、自分で計画を立てて勉強している生徒は、「どちらかといえばしている」は71.4%だが、確実にしている生徒は0%であり、また、家庭学習で授業の予習をしている生徒は、28.6%である。毎日、家庭学習に取り組んでいるものの、積極的に学習に取り組む姿勢としてはもう一歩である。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学習に対する意欲が向上するよう、毎日「自主学習（自学）」を宿題として出しています。帰りの会で、その日の家庭学習計画（教科や内容、時間等）を立てさせています。時間をかけた、内容の充実した自学ノートを提出する生徒が増えてきています。
- コミュニケーション能力を向上させるために、毎日の朝の会、毎月のブロック集会、委員会活動等の様々な場面で、スピーチ活動（原稿を見ずにスピーチ）を行っています。調査結果でも分かるように、人前での発表に自信を持てるようになってきました。今後も継続していきます。

##### 【ご家庭では】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方と、家庭学習の取り組み方が掲載されています。これも参考にされて、毎日家庭学習に取り組むお子さんへのアドバイスをお願いします。
- 家族との会話や地域の人々との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力が高められ、自分に自信が持てるようになると思います。子どもたちが1つ成長したら、その度にみんなで励ましたり褒めたりしてあげてください。